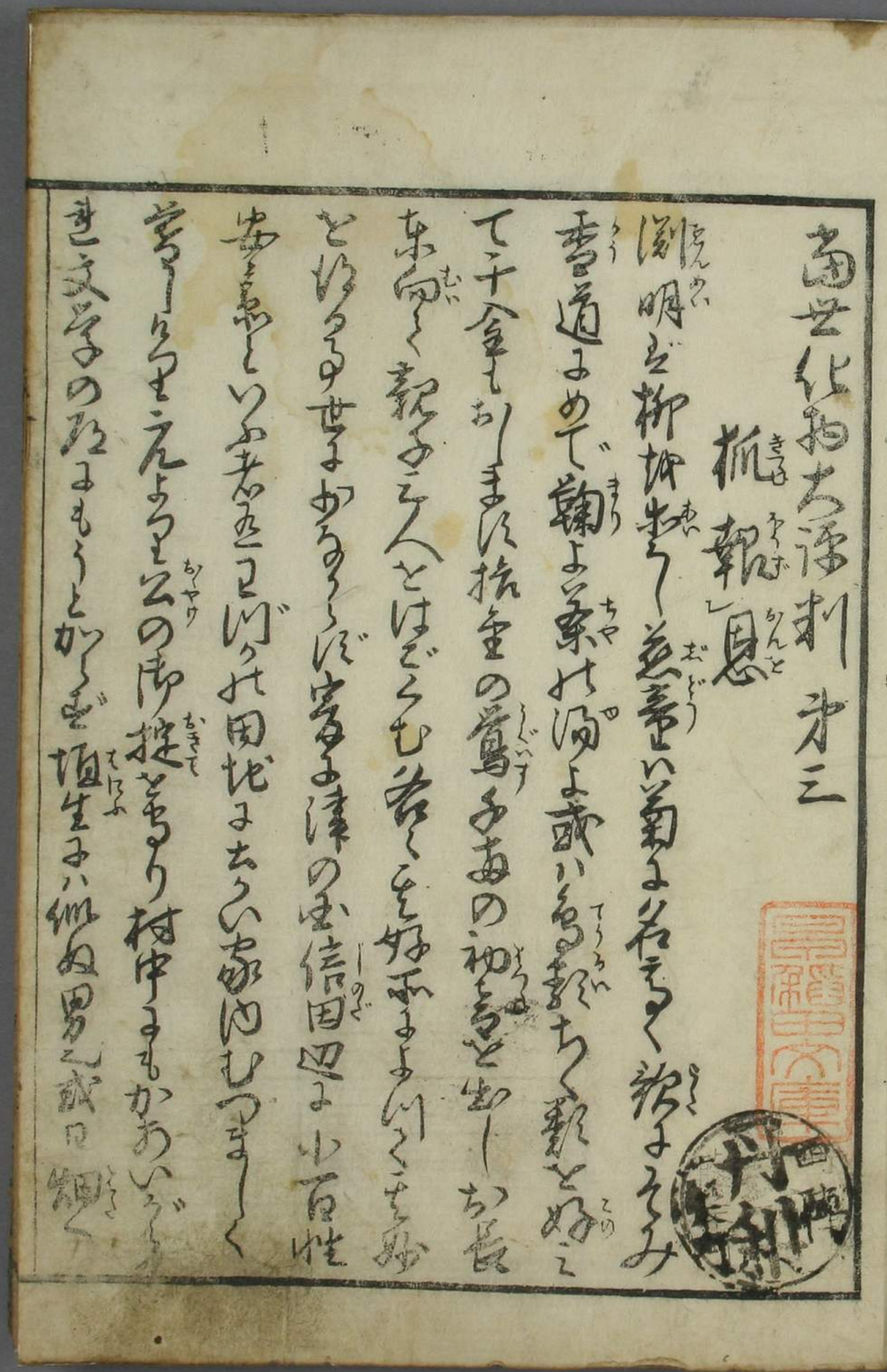
面世化物大語録

巻之

へ13
3044
3

へ13
3044
2



南世化和大海刺　第三

抓報恩

閑明ゞ柳坪生ゝ並青い菊よ若ちく紙よそみ
書道よめて鞠よ染れ河よ或いゝ歌ちく歌とぬこ
て十金もおりまし抗金の鶯子あの初音と出しち長
東向く新ゝ人とはごろもむ若くを好ゝよ
どゝゝ世よおゝゝ宮ゝ津の宝信田四よ小百性
安ゝ家ゝいゝ者ゝ三ゝ川れ田地よちゝ家内むつまゝく
言ゝゝ元ゝ元ゝ云の所捉ゝゝ村中ゝ者かゝいゝ
世文学の殿ゝもゝと加ゝゝ垣生ゝ八仙丸男ゝ或日御

り等ぎりすてして所る門悼のはくを子狐をえにげ
ある狐より材を名りてのまえ太郎し逃げ来をすてま
喰ころさんとする内此狐母を情々膝を起入助てくれよ
といへあ汁よ記そそんいろえより考ひまく色世ぬうき
男るれば狐ておと獣まく逃らしくれはおいろちく
逃げまるる扨ゑ狐を接ようもし弱ちやんとすれも
聖まくやふとろますかりて出に和ハ逃げ遠れ学れあ
やうん今ちこい連ゆり食るるとあるくゆる海やん
と仕るもちまひ生ハ南絵る海り書ようにはるを海し
ふ使とうとなく内ついへ別くを生い前やうんも和らく

重使領れるく領金ろるとかき狐ハを連ゆりし教より
親狐と思き邪もふたくぎこと和ハいるるを元れを来るを親
にやし親狐ゆるるめ海てやれと子狐を連出使よすれば
只あ素ゆれ付すかりて海ゆびを接一来もかさ法道
ゆまるこそふ使ゆれを和ハあまるゆ母親太郎ゆれ付
医師ゆを書セを来るるゆ名情ゆ者の和田ゆ名医を
てゆ連来やういをうを毛ゆるゆ先人のゆ仁のゆちくと
志ゆるゆ素ゆハゆまゆ別ゆ山ゆ者ゆ山ゆ者ゆ和ハ人面
相ゆくせゆまれ狐ゆ親種ゆれい生ゆ元ゆ物来ゆ
元ゆ年ゆ計ゆ狐ゆ子ゆれ生行ゆ来ゆ会ゆくゆれハ

全復うとかいう村人の口指人より教きて早速に調べ
五人し候ふ所に此方は大孝心なる人にて母
母の命をとるゆきといふより候人るれ命をすつ
ゆゆれいさいなる為ゆゑにすでに今育あくやをし
一附もあく服薬をへし別薬を作為て此通よりき
れよと教えて製法の仕様ホこまく書付又明るか
元祥やさんと医師ハ別きてくゆりる彼是するうち
日も暮方夕飯をべく津村へ行横師よ迎てお伝を
ちんあく祥の概仏百も燈明あげく母の病気を祈
の祈ひこまくこ来れり夜中ちく夕飯をべるホへ

薬用ふてお祈ゆゆとのゆふ通じやおと又ゆれの何よ
ひめんくこれとも又姿ハ指人と申ん板うさ男つきよ
てもを雷ゆまて行うけ松ハ指人てこさり市ゲ品ゆ山より
ゆりを岩の松田の養ゆ松ゆ、ちめよ申ゆとまてさこゆふ
れ病人ゆまく薬ゆ狐の生肝ゆ入りゆきくようし
を方ゆ雷ゆしていいゆくとれ為幸今日ゆ狐と生きり
指未詳し形ちめゆ無り糸ハ注又ゆ松遠ゆきよう
ひゆ、まり狐ハ生ゆすぎ中ゆ養ゆ松とハ松ゆ
他ゆ生ゆとり薬ゆ又指糸詳しまた伝言
ゆハ先祥の歌法の為り薬ハ調合ゆれゆく

おのれ
おのれ
おのれ

四郎ひらゑもんよりのすゑ何のゝ下人宗出家ゑもんく
のすゑ元ゝは神仏の出し門会どれ價はいとう程をとりさん
うゝ生義も悪安和よりかゝ一ゝ命きゝ訳なりされな
せむ為ゝくいちいとゑもとうつゞ流くゝ立ゆるみ組ゝと
くゝはたゝめて新まの為り調合ゝて子迷ゆく薬迷
うばゆ薬のゆきゝ十日弁も経合の病人ゝどくゝみく
湯付下宮ゝのすゑ湯付とかつゝゆゝとかゞうらく
て汁稼よかゝゝこゝとひそいゝれゝゆゝ吟付ゝゑれは
薬のきゝ目迷付和ゝくゝゝゝと恢ふ内ゝ投程和の
はゝゝ悪ゑ毒血ゝれ出きれまくゆゞひゝふゝ

ゑ会弁もゆゆ丈ゝるとかゝつゝいうみも出れ痛もうすゝ
ぎゝ分もゝ係しくゝ出ゝ弁弁もゝゑ知ひ新丈婦
恢表ゝものかいゆゝう新酒ゝは常のゝく共落世世
ゑ迷人とゆゝひて岩ゝ和田ゝゆゝゞいゆ岩ゝいゝ薬
下されゝとのすゑ使ゝ花ゝ美ゝあもゝんまいゝ同く岩
いゝ根ゝ吸ゝ薬を世ゝ弁ゝかゝとのすゑ脱くゝ世ゝと
下されゝ京ゝそまつゝゝゝゝく迷の腫ゝ毒和も妙薬も
ゑいゝ和と姫強の根ゝゝつゝひゝゝゝ性ゆゝ礼ゆゝゝ
ゑ長一貞ゞてん四ゝに有れの黄ハかいて和世ゝとのすゑ
ふゝゝゝき時に元薬法のすハ吸ゝゆ命ゝ之ゝれハ

四〇くまなく考へんとて神仏感じぬひ祈け
ねふ如へ何すもせよとていろ〳〵ハ蓋一毎ニハ種物も
いくへ行ものさ歩りなはを指もよく教ぬくく
ひの〳〵祈くも大収とのゆふ安案臨終ふもんもれば
ふるゆ〳〵くるふ祈おいつもある親狐のあるぬもふ忍
義まとゆ子狐人命〳〵表口の戸家あけくくれい狐ハ
ゆえにコレハいづくへ〳〵やとあり急さぐ出行ものし
立海り其安考よ四てゆるハ私ゆよ狐一疋加とうく
取物仕ハ芝ハ去年去私ちてけそまつかくくはゆ
まて連海り表〇而を祈ようり祝とちりき狐一ハ家

までも一夜もかくさひ童よ有る加戸家をうゝ口へ仕業
祈ふ小家おゆ限り親狐の家〳〵ゆを祈ハ〳〵口人今戸と
家をゆ子ふ小狐いつくへ〳〵ひ〳〵ゆ出ハ知れぞ見を祈
ぞれハむり面白信用ゆて有祈の保者といく人狐祈
助ゆ〳〵れ〳〵恩ゆ〳〵ゆ一ゆ時ゆよ陰陽師の考く
ゆ〳〵ゆ安義をち〳〵へ天下よ義ぶおゆく犬門よあされ
天下のもゆセと如ゆふと呼ゆ安案よ祈する祈ゆ考
考祈より〳〵られ〳〵とて有り猟人ハかの親狐ゆよ
あさへ〳〵生祈ハ刈私小養育祈〳〵ゆ〳〵ゆ狐る
らんとのゆふ其安ゆ〳〵ゆ大きよ感ゆきちく生

ゐれた恩を知り母その頑癖を扱さもて一言をもて
その仁心より起るる感ぜるよりおのずと世めてちん
親しましあるを用を考りるきる孤うを天と云る神よ
あるめいなの恩徳と親しまへとのるに安系なも
恢ひ源を稲荷の社く友信を和正一位稲荷大明
神とあうめんと云る地みりりたこるひ宮居といと
ゐと今もを信仰いちだるく母も丈今日牛まんま
となりぐるハ法徳まい海親まるうこうひるた
るぞ

一天狗感応考

彼のうぐそく大多山を踏分て正月の義を修験といのり
ゐひくようり出る験来世の今も山のちんぜう心とよ小
角は吳法こうよ渡名山あるを辺ま京来山若まを出日行
五十年登山するの九三十三なもをや六七年まくよ海
寄妙法大信行供名を長七とれ而くよ法行いちだるきた先
生五今ひも仏のぐく系上ちんと作るよ形ちもふ古人
ゐくく小名生日き生法力くるあ振立六人の日行毎来
村をづきの川そまりを寄りよちるの行も今日限りあす
去くくして出山ちんと名称の行も清りるく祈まるは村
小名方つとこら小石姓を来ゐ毎仏名六ゐとく動極釈考心

そもそもまれまれそふぞさ山上ちてき釈しあ釈ほく
れるがいろく京まづしくしく二釈も生ふさせ安ハ乙人と
ゐ身何せば生生生釈めいれたあるるれたたきていゆら
釈も生ぞ釈れと釈ひ岳六も未信しなる生人よ安ん
いるもきしひゆて西釈よくらかけ浜きのくふひ
山上ちて紀をりそ海りるる又釈いふがいるきと紀ゐと
るきを感じふと身付大浜よくもるべきちもこるかふも
くた人るれハ生ゐいふてとちや拝まかしゆの平浜
六立ゐて大浜行生のゆくふ幽れ先の人も大ゐる
れハ生ゐるれた文いまちのゆるもて音遠ひかく

ヤセハ生ゐと吟生の花と花も気の毒ゐくさいくれれも
るでゐ生れちゐめ岳六ゐ岳ゐ生立て逆利ゐる往の者ひ
花生生孝ひ如花ゐ行で山上するアハ山ハ親ま孝花
ゐ但ー病伊花ゐど立釈てよくるきゐ寝ゐ仏場ゐと怒
ゐーきゐと遠く根性ゐちあ生れのじゃと笑ま保安場の
るゐれハまつく西いるハまゐれと先山上ゐハ日ゐ乃
宗廟ゐ古神ゐれゐ又ハ京四まりゆて禁市れの伊殿
ゐゐか拝ハりゐゐーゐるとへ条信ゐゐくゐがらふゐ花
ハ行間でもいゐでゐれ源利ゐ信ゆゐゐて山上ハり
ゐいくぬるとゐゐ生人ひ安の山東ハ山ゐんとゐるゐ花ゐて

五寸ばかりなるかたなをかたにかけ長六はしりいでゝ
又会てそれをはなしめんとて手をへゝとのばすえより若
党共をのれは是はあるぬるらうけたまわれい今新
手うちもごさりませねば女房共ぞそろうたちゆゝ
まゝこのどやかなるべきちゑをひらされ本をとけんみよまい
親方なる程親のいんぐわとまつしう言せばあれう手ひとか
ゑに強よいんは百姓のはたらきじやと申さく生涯のもと
いとゞ若よ痛よる明まどやはうとて先ず村づれを
遣つてこいとのゆふべ行ふ所ぞ京新まつりとは女房仕ぎ不
長つくまてあやまつさまこの年いとまもあるいい

を星又はまた遣るもまた長六いとまもしてはりゆる
ひとそとそれ感ずるき大のゆばとき人殺りけ殺せりとてゆら
ひくとあるこまり長六ゆ何りけを方ひ殺山と殺女形ひ
も先常り手伝せあすし所の場見とあるれるひ我きゆ
ハ法刑一玉使りの出るれハ長き鉄地と殺長六よ射向
強張とあるえ山とるこあとのるあをるふも及ばす
あゝ先ら長刀糸出ひ殺すゝと情中今強張を出し
本是は辺使りのセつ揚よくハ遠女殺ゝと殺しれい
長ハ殺さ刃よ奪りあ手とついよ人刑女ゆびれ糸
ゆふ殺まれとゆもとる窓程刑ゆ見ハ文こ来る

ちりもあくは山と仕へくるこを師匠のより法名を七
と呼ゆをはいろくいろさを色三宗師と昭二口山の流
と波法法彼行の大行者さと逆無せさるとて宗祖の山
へあゆみをとこびをと伝ふふきゆをさしふめん下師
は恢天服色と伝てこんを逆しゆを伝付くれしるれは
公家方く指示せよは行る指示の名をいてれ我法力
とりてを方ぐ逆つくるいやうよを色金より差先生生
行をせされは行行なるを行行なるてゆさは大峯山の後法法
うゆるせとゆせをてまくとのるふれるくは伝を法ひ
金子報信殺して示伝いてさんるれと報先を山るかてり

逆付て伝せんとおれはいやく報生ふは宗修りのるる
山を立ちりてを行を呼ゆん心金るくるを言これ悟
行が登山一元心のるん行の根元のくれるくは空義
お彩ゆと日行の江をふてをり行紫のくく指示れ
ゆを日行あまりいてりちつとさ江山伏ゆ半れる逆付
うる行を走ぐく伝ておをとのるを元会いるがるかけと
サりくいとぞやと先生の見吹るしけふとるあすくれ
れ山を入行伝くもぞふりるく行逆行者の名最
ゆ江れる一天の川の金天とんを江たをそかの生不まそ
金一山伏を若六出会名れは先るも行りけるかつされる

とのゝヤス
只ゑざちやひとる
それハ仙人きのどくでごゝります

寺主こ行ゑ七
ぜん左ゞきつゝれなんでゝるハ
いまゝつけよあるこ
ふつゝくそうる

よか来て登山致せ候ハ[illegible]
限おつく[illegible]ハたれのゆ及いぬるをとゝ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]と[illegible]天の[illegible]極よ[illegible]り[illegible]け我師の坊ハ[illegible]
[illegible]正[illegible]ゆよりちでく[illegible]
[illegible]ハ[illegible]七八年[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]坊[illegible]師の坊[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

されよとの[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

如口ごもくさがり毎のはださ髪はたきして居ぶとひ
んだ久しき年月をかさね連れて切まれすなりまきり
をもちめびつくりしてのもまはけてのもまはけの年のす
一まくもまく立ねりあ親よりあかてんと思ひとゆる
うて海中一日迷ふたりつよびう借れいおまりはす
にびつくりせびるぜひるれはるえ森姫はうふきあるす
ともに係七八年くるるのるれいををくまをよきし
うと思ひるの海とのあきらあちよもたのまりのこ行ら
海世のの日下まよう姫るれ海しまて海りるる夫妻伝天
ちまるく彼本りのひくきんれいの系れ法ま足まて海世ぬす

一日毎海中ぬきすてしるのの姫い新掘をておしれ海り
おのとして芋ーねるふ泥ようともるくおるるま大家ら山
より瓜蕃薯の中茶りをまよう西を彼女とのるふ夫くま
あくんりるふ院ちんぐうの人ちくに姫よい病人と連れり
ん立ちれまあの日何とうん付ちるのもみれれたを病人の
祈るとの病ひとひまようむまみこちん人も家西せるる
八ま一ままつりかんちん大家瓜蕃薯瓜万病ちる金
殺と出下て家ちるふ夜も宝も米ちうん人と病人あ
しらひとふ一句陸ちるれい姫八件ぐるぐどくと石ひ
出りくるハいそぐさふ瓜まきれて一句よ石ひも出さに

ものゝ人のこゝ人も来て傾くにいと仕合て七八人の道
年は閑雪すくれハ彼岸すゝまれハ彼岸すゝ内八年めは甚もあり
名れハ大方將も消るてゝ人ハ年ハ長山は登
山とのゝは長たゝもいそがい中とゝ方のやこゝ達は
万ゝと有てゝぶを將あゝはたれ海ゝ下されとなゝ人ゝ
年季あく人まゝ出人行者おゝ初尾ゝ新二ゝ日月
中れ、ゝ面新は張され乃中ゝ上ゝ下されと悔ゝ
長勢まゝ新へゝ立の日もゝ知くゝと村とゝれゝ
名ゝ長ゝ長たゝ新ゝ出ゝ海ゝ長山ゝ上ゝ
りゝこゝらはゝゝゝと立れハせぬゝと人行者れも

別ゝて伝人ゝこゝ上ゝ立新ゝ夫ゝ天の川ゝ行者
年長六ゝ年れゝ赤ハこゝらゝと名ゝ角矢天
の堂のおゝこゝゝけゝ神ゝ長六ゝ長六ゝ
釈迦ゝ天ゝ女ゝ人ゝ新ゝ性ゝ女ゝ人
もゝく抓ゝ抓ゝ名れゝ長ゝ人ゝ名れゝ
こゝひハ山ゝ上ゝ抓ゝ抓ゝ新ゝ海ゝ人ゝ
こゝ長ハ天の川ゝ海ゝ海ゝ海ゝ長ゝ
家ゝ出ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ長ゝ
乃中ゝ海ゝ女ゝ性ゝ名ゝ長ゝ名ゝ長ゝ
のゝ人ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝ

おもてにあらはれ給ひて世にあらはれ出
よりなれハ入たゝく山ゝ岳にあるとそ
ゝ山の高き所に若き茶をうゑて病人乃
れ扱ひ村中うゝゝもむ者ゝ是も釈子の正直の
かゝゝ世の仕合とかく後のあくてハくるまぬ代その
こゝろ法花一乗の茶味よそあらぬ

高世化和大津刷美ゝ

西陣 貴重書

I